

令和三年

新春を迎えて



新年あけましておめでとうございます。町民皆様には、うららかな新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

令和2年は、新たなウイルスという、目に見えない敵が世界を一変させました。

2月には、北海道独自の緊急事態宣言や学校の全国一斉臨時休業、4月には、国が全国に緊急事態宣言し、不要不急の外出自粛を要請いたしました。

今では、ほぼ全員がマスクをし、こまめに手洗いをし、自宅で仕事をし、パソコン越しの飲み会か、お行儀のよい会食。お店に

入るときは検温と消毒、カウンターにはビニールが垂れ下がるなどの生活スタイルが日常となり、現在もなおその戦いが続いております。

町といたしましても国の臨時交付金を活用しながら、この非常事態での最大の被害者は子供たちであるとの考えのもと、学校施設の感染症対策は基より、国が推進していますGIGAスクール構想とは別に、家庭においても先生や仲間とつながることのできる環境整備を独自で早急に進めて参りました。

また、感染症対策、経済支援、生活支援の均衡を図りながら、できるだけ、未来につながる支援策を講じて参りました。

そのような、重たい空気感の中、目の前の雲を蹴散らすような話題が町内を駆け巡り、町民に夢と希望を与えてくれました。

町出身の伊藤大海投手の日本ハムファイターズ、ドラフト1位指名です。町では盛田幸妃投手に次ぐ2人目となる快挙であります。

町全体で伊藤投手の今後を温かく見守り応援して参りたいと考えております。また、有志による後援

会設立なども期待している所であります。

さて、私の任期も残すところ、2か月足らずとなりました。

この間、町民皆様のご協力をいただきながら、町政運営に誠心誠意努めて参りました。

初年度は、私も含めました役場職員の意識改革と対話ミーティングなど町民皆様の小さな気付きや想いを見逃さない仕組みづくりを行って参りました。対話ミーティングなどは、今では、私共の進むべき道を照らす、大変重要な事業となつてございます。また、中小企業振興条例の制定や子育て世代の方々から多くのご要望がございました、夏休み、冬休みの預かり保育の実施など、1年目からスピード感を持って、法整備や事業の拡充、各制度設計等に取り組んで参りました。

2年目の平成30年度は「更なる挑戦」と「確実な実行」の年として、5つの課題の方向性を決定させていただき、これまで、なかなか踏み切れなかった、0歳から2歳児の保育事業をスタートさせ、実際にご利用いただく事業者

などの声を聞きながら、企業への補助事業制度を創設することができました。



しかべ保育事業「ひよこ」

水産業については、昆布やなまこなど各種試験事業の規模を拡大しながら、同時に人財育成にも力を入れ、進めて参りました。また、これまで、鹿部の宝だった「しかべ間歇泉」が見事、北海道遺産に選定され、北海道の宝へと押し上げることが出来ました。

3年目は、新たな元号、令和がスタートいたしました。令和元年

年も災害の多い年となつてしまいました。

そのような中、私共は、「力強い前進」と「聖域なき検証」の年と位置付けまして、一つは「役場新庁舎整備」もう一つは「A級グルメ構想」、この2つの事業を軸に力強く前に進めて参りました。

2つの事業以外にも、公共交通の実証運行やふるさと納税の推進、浅海漁業対策、合葬墓地の整備、コミュニケーションカフェの充実や高齢者をみんなで支え合う生活支援体制事業などを進めて参りました。また、切れ目のない子育て支援の構築に向けて、幼稚園の在り方やまちの創生をかけた重要施策が盛り込まれます第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案をまとめて参りました。

そして、今年度で「ございますが、私たちは「勇気ある変革」と「次なる飛躍」の年と位置付けまして、まずは、新庁舎整備事業に鋭意取り組み、移転に向け、お年寄り、子供にも優しい各種住民サービス等の在り方や公共交通網の整備、自主防災組織を核とした、さらなる減災対策などについ

て、全力で進めています。

さらには、今年度の最重要案件を「子育て支援」と「居住支援」に決め、変化を恐れず、勇気ある議論を進めているところでございます。

A級グルメ構想につきまして、鹿部町産業連携ビジョンを策定し、町民皆様とその理念であります、豊かな自然や地域の食を守り、生産、加工、流通、販売、消費までの全ての方々がつながり、共に支え合うという、その想いを共有し、「食」で「職」をつくるをテーマに身の丈に合った事業を一つ一つ実施して参りたいと考えております。



にっぽんA級(永久)グルメのまち連合設立

そして、基幹産業であります、漁業を守り抜くために、「つくり・育てる漁業」の構築と、「稼げて、かつこよくて、革新的」を合言葉にその日の漁模様で一喜一憂しない、盤石な漁業体制づくりに向け、昆布やウニ、カキ、なまこの試験的取り組み、人財育成、漁業協同組合との意見交換会など開催しております。本年につきましても、各関係機関との連携を密にしながら進めて参ります。

また、昨年度から進めております、各種事務事業や運営方法などの検証につきましては、変えるべきものは変え、守るべきものはしっかりと守りながら、進めて参ります。「答えは探すものではない、答えは作るものだ」と言われた方がおりますが、まさに、いま、私たちの前に道はなく、私たちの後ろに道ができる状況であります。答えのない、多様性の時代に皆様と「心ひとつ、ワンハート」で、誰のせいにもしない、自分事として考え、今の自分になにができるのか、批判ではなく提案に変え、思想ではなく行動に移します。我々は、次の時代に何を残

し、何を残さないのか、私たちの未来のために、恐れることなく、勇気をもって変革し、地域の自信と誇りを胸に次なる時代へと向かい、日本一、魅力ある漁師町、日本一、行ってみてみたい、住んでみたい漁師町を目指し、町民の皆様と力を合わせ、オール鹿部で立ち向かい、鹿部新時代を躍進いたしましたと考えておりますので今までの上のお力添えをお願い申し上げます。この町に暮らす誰もが頼りにしたり、頼りにされたりする昔ながらの当たり前の関係性を保つ、各世代が安心して暮らせる共生社会実現を目指して参ります。

結びに、医療関係者をはじめといたします、生活基盤維持のために最前線でご活躍くださっている全ての方々に心からの敬意と感謝を申し上げます、町民皆様方の益々のご活躍とご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げます、新年のご挨拶といたします。

令和三年元旦

鹿部町長 盛田昌彦